

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：前佛 和秀

事業名 一般国道47号 <small>しんじょうふるくち</small> 新庄古口道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点 自： <small>やまがた しんじょう もとあいかい</small> 山形県新庄市大字本合海 至： <small>やまがた もがみ とざわ ふるくち</small> 山形県最上郡戸沢村大字古口			延長	10.6 km
事業概要 新庄酒田道路は、新庄市から酒田市に至る約50kmの地域高規格道路である。 新庄古口道路は、新庄酒田道路の一部を形成し、異常気象時通行規制区間及び特殊通行規制区間の解消や冬期交通障害の解消を目的とした延長約10.6kmの事業である。				
H13年度事業化		— 都市計画決定	H19年度用地着手	H20年度工事着手
全体事業費	約558億円	事業進捗率 (令和2年3月末時点)	約61%	供用済延長 4.6km
地域の防災面の課題 ・現道の国道47号では異常気象時通行規制区間が1区間（連続雨量150mm）、特殊通行規制区間が1箇所（河川氾濫により危険が予想される場合）存在。また自然災害等による全面通行止めは、過去30年間で69回発生。 ・周辺に代替路線がなく、災害等による通行止めが発生した場合、迂回に要する距離は通常期の約3倍を要する。 ・このため、戸沢村の日常生活を営む上で重大な障害及び不安要素となっており、地元自治体等からも改善の要望も出されているなど、地域の喫緊の課題となっている。				
課題を踏まえた対策・事業内容 ・通行規制区間解消のため、約10.6km区間を別線整備。 ・全線で現道対策を行う場合、大規模な法面対策、現道嵩上げ、線形改良が必要となるほか、集落部を通過しており用地買収に多額の費用を伴うことから、コスト高となるため別線による整備とした。				
事業の効果等			費用 (残事業)/(事業全体)	
①災害等による迂回解消を含めた走行時間の短縮等 (640億円(残事業=492億円))			239/659 億円 (事業費：178/576 億円 維持管理費：60/83 億円)	
②円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減 (渋滞損失時間：15.8万人時間/年、渋滞損失削減率：約10割削減)				
③安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス向上 (新庄市～日本海総合病院 現況68分⇒整備後64分)				
④災害への備え ・災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する (孤立の恐れのある地区：戸沢村蔵岡地区) ・現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する (異常気象時通行規制：1.0km(連続雨量150mm)、特殊通行規制：0.9km(河川氾濫)、運搬排雪区間に伴う通行規制：上り合計4.4km、下り合計4.1km)				
他12項目に該当				
関係する地方公共団体等の意見				
○山形県知事の意見 1 「対応方針(原案)」案のとおり「継続」で異議ありません。 2 一般国道47号新庄古口道路は、地域高規格道路「新庄酒田道路」を形成するものであり、災害時のリダンダンシーを確保し、国土強靱化に資するとともに、物流の効率化や産業の振興、観光交流の促進、救急医療活動への支援などに寄与する極めて重要な路線であり、コンテナ貨物の取扱数量が増加傾向にある酒田港の利活用の面からも、大きな役割を担うものです。 本県では、「第4次山形県総合発展計画」や「山形県道路中期計画2028」において“高速道路・地域高規格道路の整備”の重要性について盛り込んでいるところであり、引き続き、コスト縮減にも十分に配慮しながら、事業期間である令和4年度までの開通に向け、着実な予算の確保をお願いします。				

○以下の団体等から新庄古口道路の整備促進について要望あり

- ・山形県知事、国道47号・新庄酒田地域高規格道路整備促進期成同盟会、山形地区国道協議会
- ・山形県道路整備促進協議会、山形県開発推進協議会、山形県町村議会議長会、最上開発協議会
- ・戸沢村・庄内町地域連携フォーラム実行委員会
- ・高速道路のミッシングリンクを解消し日本の再生を実現する10県知事会議

事業評価監視委員会の意見

対応方針（原案）は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成13年度新規事業化、用地進捗率100%、事業進捗率約61%（令和2年3月末時点）
- ・平成27年11月：新庄市大字本合海～新庄市大字升形間 延長2.4km（2/4）部分開通
- ・平成30年7月：戸沢村大字津谷～戸沢村大字古口間 延長2.2km（2/4）部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・事業の進捗に係る問題はない。
- ・令和4年度の全線供用（2/4）を目指して事業を実施中。

施設の構造や工法の変更等

- ・トンネル内の水路形式の見直しを行うことでコスト縮減を図っている。

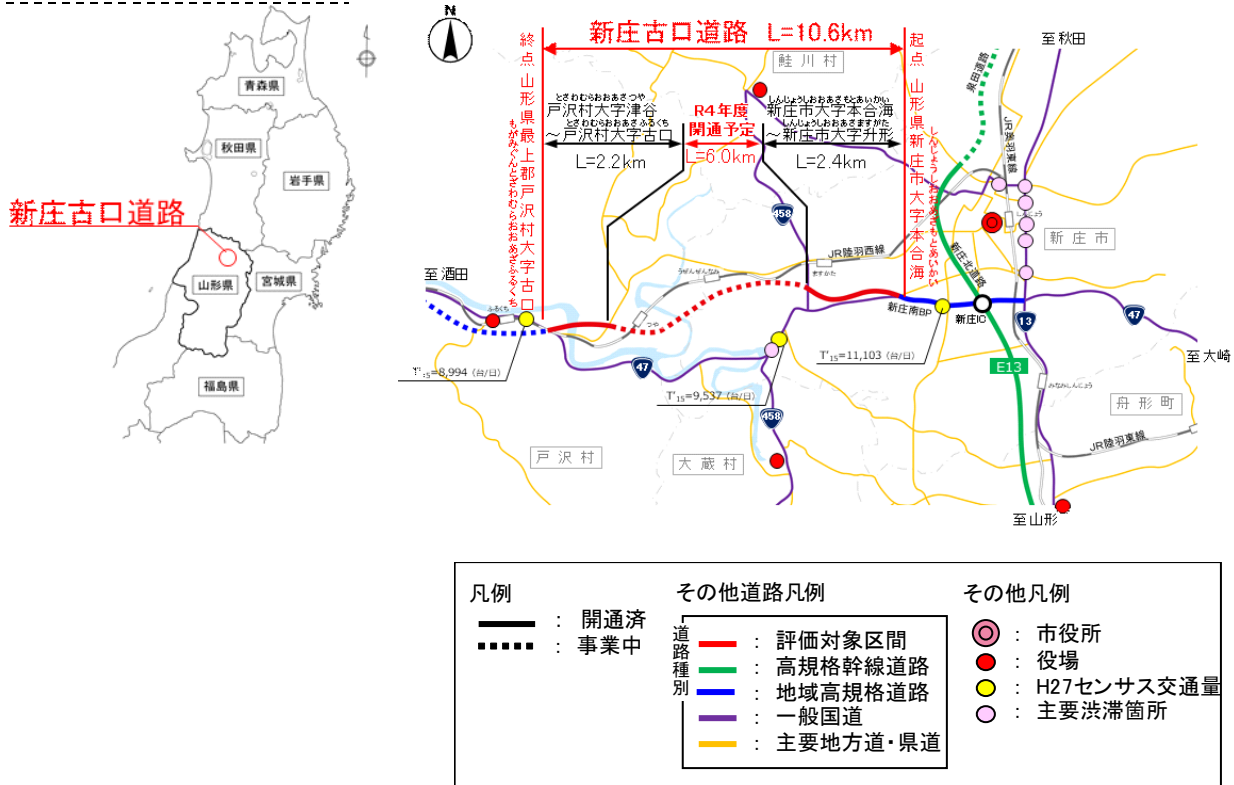
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・最上地域と庄内地域の連携の強化を図るとともに、災害発生時の信頼性向上、搬送時間の短縮による重篤患者の救命率の向上、冬期の走行性・速達性の確保等のため、早期整備の必要性が高い。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。